

本日、顕現後第6主日は、日本聖公会の定めるハンセン病啓発の日です。

ハンセン病は、以前はらい病と呼ばれておりましたが、このらい病という言葉は1996年以降差別語となりましたので、聖書に出てきた場合、すべて重い皮膚病と読み替えることになっております。また、聖書協会共同訳聖書では、「規定の病」と表現されることになりました。どうぞ聖書を朗読される際など、旧表記の聖書であった場合にはご注意くださいと思います。

今日ハンセン病は大変少なくなり、わたしたちの北関東教区聖慰主教会がある栗生楽泉園の在園者のうち、菌をもっている人はもはや誰もいなくなりました。またこの病気は不治の病ではなく、他人に感染する可能性もほとんどないことがわかってきましたが、主イエスがおられた頃、不治の病とされていました。また大変感染力の強い病気と考えられておりましたので、ハンセン病の人は一般の人の近くにいることが許されず、風上に立つことも許されていませんでした。歩く道も別になっていました。すなわちこの病気は体に変形をもたらすということだけでなく、かかったら絶望の底に落とされてしまう病気だったのです。

聖書の物語を読みますと、ハンセン病の人々が主イエスに癒しを求めています。このこと自体実はユダヤの社会で許されていることではなかったのです。しかし主イエスは、絶望の底から呼び求める声をはっきりと受け止めてくださいました。また彼らの主イエスへの信頼は一般の人びとよりもはるかに大きいものであったことも事実だったのです。この呼びかけに対し、主イエスは直接ハンセン病の人々に触れ、病を癒されたのでした。直接触れるということ自身、これもまた当時の社会で考えられないことでした。もちろん主イエスは直接触れることなくしてもハンセン病を癒す力をもっておられたに違いありませんが、主イエスによって触れられた彼らはどれだけ大きな力を与えられたことでしょうか。主イエスは体だけではなく、心にも触れられたからです。主イエスは心身をいやされたのでした。病を癒された彼らは、当時病気の認定および治癒を判断する役割を担っていた祭司のところへ行き、病気が治ったことを認めてもらうよう主イエスに言われます。

そしてもう一つ、主イエスから、このことを誰にも話さないようにと厳しく注意を受けました。主イエスが本当に伝えたいと願っておられたことは、病人

が癒されたということではなく、天国が近づいていること、人びとが悔い改めてこのよい知らせを受け入れることでした。癒しは天国の力をこの地上に示すことに他なりませんでしたが、人々の関心が病気の癒しのみになってしまい、本来の教えを受け止めるには、まだ時間が必要であり、時が来ていないのを主イエスは知っておられたのです。今広まれば、人々は興味本位でしか主イエスを見なくなり、悔い改めて福音を信じる心が芽生えないのです。メシアが受け止められる時が来るまで、主イエスの正体は隠されていなければならなかったのです。これをメシアの秘密と呼んでいます。

病気の癒された彼らは、絶望が希望に変えられたその事実を、人びとに告げ知らさずにいられませんでした。その結果主のもとには続々と病に苦しむ人びとが連れてこられました。主イエスの活動は最初から大きな試練に遭遇することになりました。しかし主イエスは彼らを追い返しはなさいませんでした。すべて絶望の底に沈む人びとの思いを希望に変え、喜びで満たされました。天国の力は制限されることはなかったのです。

主イエスはこうして、どの人々とも一期一会の出会いをなさり、主なる神の恵みで満たされました。喜びで満たされた人々は増え広がり、主イエスの登場を言い広めました。ガリラヤにおける主イエスの伝道は、大きな福音ではありましたが、人々の受け止めは必ずしも主イエスの望み通りではありませんでした。しかし人の思いに天国の力は制限されることはなかったのです。主イエスの御心にかなう受け止めが求められたのは言うまでもありません。私たちが主なる神から恵みをいただく時、数多く無限のその機会にめぐり合うたびに、本日の主イエスの思いを思い起こしたいものであります。

本日は今日も差別が根強く残る、ハンセン病に対する啓発の日でもあります。2003年の熊本県のホテル宿泊拒否は私たちの記憶にまだ新しく、菌を持つ人もだれもいなくなり、終焉期にはいったハンセン病に対する差別はいまだに根強いものがあります。ハンセン病の問題は今日大きな社会問題となっているいじめとの共通点があります。草津のとなりにある六合村で楽泉園の方がハンセン病患者の辛い体験を話したところ、いじめが本当にいけないことだとよくわかったと言ったとのことでした。ハンセン病差別をなくすことは、ハンセン病差別のみにとどまらず、この世界からすべての差別をなくしていくことにつながります。本日はこのこともよく覚えながら、主イエスの福音に耳を傾けたいものであります。